

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 教授
氏名 Name	林田 理恵
専門分野 Academic Field	ロシア語学・ロシア語教育論

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ロシア語教育ネットワーク確立の現段階評価とまとめ ロシア語学習者中間言語分析
<p>① ロシア語受動文が言語システム内で不定人称文，語順転換文等，従来，競合するとされてきた他構文といかなる機能分担を行っているか，動詞語彙の意味特性との相関性を考察するため，引き続きコーパス等を使って広範囲なデータ収集と共起制限等をめぐる詳細な分析を行った．ロシア語ヴォイス関係のこれまでの論をまとめた著作の刊行を準備中．</p> <p>② Ju.S. マスロフ著「アспект論」（全 4 章，263 p.）について，共訳者との訳語のすり合わせ，索引作成等の最終作業を引き続き行い，刊行へ向けて準備を継続した．</p> <p>③ 1) 2016 年 3 月までの 5 年間の科研活動によって構築した教育ネットワークの現段階における質的評価，さらに明らかになったロシア語教育の現状分析を踏まえ，日本におけるロシア語教育の今日的課題と今後の展望をまとめ，日本ロシア語教育研究会東日本例会にて「今，日本のロシア語教育に何が求められているのか — 5 年間の科研活動で見えてきたもの —」と題し総括発表を行った。</p> <p>2) ロシア語ジャーナル「Русский язык за рубежом」誌日本特集号に論文「В каком направлении должно двигаться сегодня преподавание русского языка в японии（日本のロシア語教育は今，どう進むべきか）」を公表，日本におけるロシア語教育の現状を分析，問題点を抽出し，その改善のために今，何が求められているのか，課題を明らかにし，そのような課題解決を目標に組織された「日本ロシア語教育研究会」の活動内容を紹介した．</p> <p>④ 15 年間蓄積した本学ロシア語学習者の CEFR B1 レベル作文検定試験結果データの学習者コーパス構築への活用の可能性と意義を検討し，データの一部を使って，アспект，ヴォイスの 2 領域でパイロット調査を実施した．その分析結果と学習者中間言語分析の将来的展望を考察した論文「ロシア語学習者コーパス構築の可能性と意義」を『言語文化研究』43 号に発表した。</p>	